

新たな役割を担う「内港地区」

フェリーターミナル(空見ふ頭)



【港内位置図】

大量貨物を海陸一貫輸送できる大型カーフェリー 輸送手段の転換“モーダルシフト”の担い手として

高度経済成長に伴って貨物輸送量が増加し、鉄道やトラックなどによる内陸輸送は逼迫していたため、トラックごと大量の貨物を輸送できる長距離カーフェリーが脚光を浴びました。

名古屋港においても昭和 45 年、空見ふ頭南西部にフェリーふ頭を整備することが決定しました。整備は我が国で初めて地方公社方式で行うことになり、財団法人名古屋フェリー埠頭公社が昭和 46 年に誕生しました。

その後昭和 47、48 年に相次いで、1 万トン級岸壁 2 バースと旅客ターミナルが完成しました。

財団法人名古屋フェリー埠頭公社は、平成 5 年に外貿コンテナ業務が追加され財団法人名古屋港埠頭公社に改組し、さらに平成 24 年 12 月からは、同公社の全ての財産および業務を引き継ぐ形で名古屋港埠頭株式会社が設立し、業務を行っています。

中部圏と東北、北海道を結ぶ航路が就航 名古屋と仙台と苫小牧を結ぶ太平洋フェリー

現在、太平洋フェリー株式会社では名古屋と仙台と苫小牧を結ぶ航路が 1 日おきに運航され、貨物輸送、旅行・レジャーなどに幅広く利用されています。



旅客ターミナル

フェリー航路案内

航路	名古屋と仙台と苫小牧
運航会社	太平洋フェリー株式会社
運航船舶	いしかり・きそ・きたかみ
運航日程	2 日に 1 便
問合せ先	太平洋フェリー株式会社 名古屋港営業所 052-398-1023

令和 6 年のフェリー利用実績 (商品車を除く)

旅客数	乗用車	バス	トラック	その他車両
81,022 人	23,236 台	152 台	4,853 台	30,397 台

専用ターミナル (空見フェリーターミナル)

係留隻数 316 隻 輸送用容器
取扱量と品種

